

MJOT 会報

日本語教育の23年間

元バーリント・マールトン学校 日本語教師
キッシュ・イロナ

新年あけましておめでとうございます。

Kedves Kollégák! Egyike vagyok azon szerencséseknek, akik részt vehettek a magyarországi japánnyelv oktatás újraindításában. Családommal együtt 1987-ben tértünk haza 5 éves japáni kiküldetésünkből, tele élményekkel és életreszóló elkötelezettséggel a japán nyelv és kultúra iránt. Ekkor kerültem a Törökbálinti Kísérleti Iskolába japánnyelv tanárnak.

Most, 23 év után visszatekintve, meg tudom erősíteni, hogy az idegennyelv-oktatás nemcsak a nyelvet, hanem a kultúrát is kell, hogy közvetítse. A mindennapi viselkedési formák és szokások, az ünnepek és a hozzájuk tartozó dalok, játékok, mind segítenek, hogy mélyebben megismerjük az országot. Ne törődjünk bele, hogy nincs rá idő! Főleg a kezdeti szakaszban nem fölösleges időpazarlás, hiszen a mondókákkal, énekekkel rögződik a helyes kiejtés, a nyelvi harmónia! A számunkra kissé szokatlan tiszteleti nyelvezet használata a gondolkodásmód megismerésével válhat számunkra is természetessé. Sose felejtsük el, hogy a mi felelősségünk, hogy a japán nyelvvel ismerkedőkben milyen kép alakul ki az országról és néperől!

Végezetül szeretném megköszönni mindenkinek az együttműködést és az erőfeszítést a közös cél elérésére! Csak remélni tudom, hogy nem törik meg a lendület a nehezebb időkben sem. Bár visszavonultam az iskolai tanítástól, ezentúl is szeretnék egy kis részt vállalni a közös munkából!

Boldog és sikeres Újévet kívánok a további munkához!

これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

教師会の皆様、

ハンガリーの日本語教育を始めた一人として活動できたことは本当に幸せです。1987年に日本から帰って、トロクバリントの実験小学校で日本語を教えました。23年後の今でも、言葉だけでなく、文化を教えることも大切だと思っています。毎日の生活、習慣などは日本の国を知ることの基です。歌や遊びなどは日本語の正しい発音や言葉のハーモニーを伝えます。けっして時間の無駄ではありません。文化といっしょに日本人の考え方も分かるようになります。文化を伝えるのは教師の私たちの責任です。この責任を忘れないようにしましょう。学校を辞めても日本語教育の仕事を皆様といっしょにできるだけ続けたいと思っています。長い間、本当に大変お世話になりました。

エトベシュ大学

にほんがつかじゆんきようじゆ うめむら ゆうこ
日本学科准教授 梅村裕子

エトヴェシュ大学はハンガリーで最も伝統のある大学です。カトリックの枢機卿パズマーニ・ペーテルによって、現スロバキア領ナジソンバト(トゥルナバ)に開校以来一昨年は創立375年記念でした。オーストリア・キャンパスにある重厚な建物の多くは19世紀末頃に建てられました。日本語教育の伝統も比較的早く、既に戦前に講座があり、プレーレ・ヴィルモシュら当時の東洋学者が教えていました。戦後の冷戦時代に一時中断していた日本語教育は1960年代から再開し、1980年代には東洋学科の日本専攻課程に発展し、2008年より独立した日本学科となりました。ハンガリーのEU加盟に伴い2006年に大学全体がボローニャ・システムへと移行してカリキュラムも変わり、去年から新しい修士課程がスタートしました。ハンガリーで唯一日本語の博士課程があります。我が校はハンガリーにおける高等教育全体の中でも研究大学と位置づけられていて、それに相応しく日本学科も研究者の養成に力を入れています。

このような大学の特徴もあり、日本語習得の目標のひとつは日本語の学術的文献や文学作品を読むようになることです。言葉の習得とは読む、書く、聞く、話すという総合的な能力が必要ですが、限られた時間とカリキュラムの中では方向性や目標を掲げることも学生生活を有意義に送るため必要でしょう。特に今は日本語の入学試験がないので、大学に入ってから日本語を始める人がほとんどです。BA課程を卒業する3年間で卒業論文を仕上げるためにも文献を出来るだけ日本語で読む能力が求められます。

という訳で、我が校日本学科は実用的な日本語を習得するというよりは学術的なものを重視する傾向にあり、三年目には日本語の専門文献を読んで研究し、それをハンガリー語論文にまとめることが目標の中心です。

カリキュラムは語学の授業と並行して、講読、日本事情、歴史、文学、言語学、古典、決まったテーマのゼミ、論文ゼミなどがあり、東アジアに関するより広い知識を得るため宗教や文明についての共通講義も設けられていて、広く基礎を学びます。加えて東アジア関連の共通授業では東洋美術や中国語の基礎も学びます。こういった広範な教養を身につける事は学術論文を書くためだけでなく仕事に就いてからも有用でしょう。

今述べましたように、ゼロから日本語を始められますが、三年目で専門文献を読むという高い目標が掲げられていますので、出来れば入学の時点で少しでも基本的な日本語能力のあるのが本当は望ましいところです。また既に日本語既習者で日本学科へ入学できなかった人々には副科での日本専攻という道も開かれていますし、その後成績次第では日本学科の修士課程へ進むことも可能です。

最近では日本への留学にも多くの可能性が開かれました。日本政府の支援による留学生枠、国際交流基金によるプログラム、また大学間の協定による留学など様々です。これらのプログラムにより我が校からは常に10人くらいの在校生、卒業生が日本へ留学していて、皆さん帰国後は成果を大いに発揮して良い論文を書いています。

卒論のテーマも様々ですが、特にBA過程では自由に広い分野からテーマを選ぶことができます。大まかには歴史、文学、言語学、文化史の領域に分けられます。教員の立場から述べますと、日本学科に入学した皆さんには、出来るだけ早く自分の関心事項を定め、文献をどんどん探して読み、書かれていることをどう次に発展させていけるか考えることを勧めます。三年間の学士課程はとて短く、授業を受けながらの論文執筆はけっこう大変で、急いで仕上げざるを得ないのが実情だからです。また、論文とはどんなもので、どうやって書くのか、ということも同時に勉強せねばならないので、卒業前は猫の手も借りたいほど忙しくなるようです。

就職先は、ハンガリーの省庁や昨今ハンガリーへ進出した日本企業、日本政府の関係機関、日本人顧客の多い旅行会社や語学学校など卒業生達は多彩な業種へと進み、習得した知識を生かしています。

現在の日本学科の教員スタッフは専門科目を担当する専任教員が三人、語学教育を専門にする講師が二人、それ以外には数人の非常勤講師と、他学科の教員による共通授業が行われています。また大学院生も一部の基礎的科目に教員として参加しています。

卒業生には将来、日本とハンガリーの関係を担うという重要な役割が大いに期待されています。日本学を志す皆さんとキャンパスでお会いすることを楽しみにしています。

カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学

カーロリ大学 若井誠二

カーロリ・ガーシュパール大学の学士課程（日本学コース）には「日本語」という名前の授業はありませんが、「文法I～VI」「読解I～IV」「言語の正しさ（作文）I～IV」「会話I～VIII」という授業があります。このうち「文法I・II」の授業は90分の授業が週に3回、その他の授業は90分の授業が週に1回あります。現在日本学コースには学生がたくさんいますから、学生の人数に合わせて、各授業でクラスが2～3に別れています。

日本学コースでは入学後のオリエンテーションでプレースメントテストを行います。この成績と学生の希望に合わせて、「日本語初心者」と「日本語既習者」のグループに分かれます。日本語初心者は1年生のときに「文法I・II」と会話「I・II」の授業を取ります。そしてこの1年で日本語能力試験N4合格レベルを目指します。日本語既習者は1年生で「正しさI」「文法III」「会話III」の授業を受けることができます。読解の授業は2年生から取れます。

これらの授業を教えている先生は、ハンガリー人の先生が4人、日本人の先生が2人です。このうち文法や読解というインプットが中心の授業はハンガリー人の先生が教えています。文法や読解の授業は日本学を学ぶためのもので、先生も言語学や文学の専門家です。会話や言語の正しさ（作文）というアウトプット中心の授業は日本人の先生が教えています。会話の授業では「あるテーマについてデータを用いて説明ができる。」「調査や研究、留学、就職などに必要な、日本人が失礼だと感じないコミュニケーションをすることができる」などが目標になっています。正しさ（作文）の授業では、「ハンガリーに住む日本人にどんな情報を提供できるか」をテーマに、「ハンガリーを知る」「私の町の歩き方」「日本人の知らない日本」などの資料を作っています。

日本学専門コースを卒業するためには、Alapvizsgaに合格し、卒業試験の日本語試験も合格しなければなりません。Alapvizsgaでは『日本を知る』という教科書から、漢字・語彙・文法・翻訳・聴解・作文・会話の試験が行われます。また卒業試験では自分の書いた卒業論文について日本語で説明し、質問に答えなければなりません。

副専攻の学生も2年生から日本学専門コースの授業を受けることができます。ただし日本語初心者の副専攻の学生は1年生のときに「文法I・II」「会話I・II」を取ることができます。

カーロリ・ガーシュパール大学には修士課程（日本学）もあります。修士課程では日本語の授業はありませんが、「議論のスタイル」「日本語プレゼンテーション」「論文読解・作成」「教授法」という授業が日本語で行われています。またカーロリ大学の学生でなくても通える「0年生」という日本語コースもあります。

カーロリ・ガーシュパール大学には、授業の他にも日本語を使える機会があります。例えば毎週火曜日には書道クラブがあります。そして金曜日には日本語手話クラブもあります。（以前は「日本語（会話）クラブ」「生け花クラブ」「合唱クラブ」などもありました。）これらのクラブには日本人も通っていますので、日本人と友達になることができます。

このようにカーロリ大学には色々な日本語の授業やクラブがありますが、授業だけでは日本の会社で働いたり、日本の大学に留学するための日本語能力を身につけることは難しいです。大学を卒業するまでに日本語が上手になるかどうかですが、大学に入るときの日本語能力はあまり関係ありません。関係あるのは自分で日本語を使う機会を見つけ、その機会に積極的に参加できる人かどうかです。積極的に日本語や日本文化に関わろうとする、積極的に学ぶ入学生を待っています。

ブダペスト商科大学国際経営学部、大学院国際関係学修士課程・博士課程

ブダペスト商科大学 佐藤紀子

日本語教師数: ノンネイティブ1名、ネイティブ1名

学年別授業数: 1・2年生週3コマ。3年生週2コマ。以上は大学院修士・博士課程の学生その他、他大学の学生も受講できる。ビジネス日本語検定試験準備講座週1コマ。準備講座は、一般にも開放。

大学での日本語教育の位置づけ: 第二外国語として選択必須科目。第三外国語として自由選択科目。地域研究として日本経済や日本史、ハ・日文化交流史、日本異文化経営学、商習慣、ビジネスエチケットなどを学ぶ集中講義の一環としても日本語教育を行っている。

入学前に既習してほしいこと: 特にない。日本語学習と異文化コミュニケーションに対する意欲さえあれば十分。

授業方針: インターアクションを含む言語の5技能を伸ばす。卒業時にビジネス日本語中級(B2レベル)試験への合格を目指す。日本語学習を通じて、卒業後ビジネスの現場ですぐに役立つ異文化コミュニケーションおよびビジネスコミュニケーションの精神と知識、技能を身につける。筆記能力と同様に、口頭能力、対話力の育成に力を入れている。

授業内容: 使用教科書は、1年生『できる』、2年生『できる』、3年生『みんなの日本語』『ビジネスのための日本語』。読み書き、CDを使った聴解、ディクテーション。ペアワーク、ロールプレイによる練習、口頭発表などを重視している。留学生と交流する機会を多く設けている。

教師からひと言: 本学では、ビジネスの現場や実践に役立つ日本語、日本文化の知識を学習者に身につけてもらうことを目指している。そのため、1年間、週1日5コマの集中講義を行う東アジア異文化経営学研究コースを設けている。このコースは全学年のみならず、学部外、学外の学生にも開放されている。今年度は、本学の学生その他、コルヴィヌス大学の学生2名が受講している。講義科目は、日本異文化経営学、ハ日文化交流史、商習慣・ビジネスエチケット、日本経済、日本経済史、日本史の講義が設定されている。日本語学習者には、韓国語、中国語の基礎授業もある。この他、中国史、韓国朝鮮史、中国・韓国異文化経営学の講義も組み込まれている。また、日系あるいは韓国系、中国系の企業訪問も行い、実際に現場を見る機会も提供している。講師には、学内の教員に加え、日系企業や中国系企業で働くビジネスマン、現役・元外交官などの専門家を迎え、最新の情報提供を心掛けている。以上、日本語だけではなく、日本文化に関する幅広い知識が獲得できる場となっている。

その他: 東アジア異文化経営学研究コース受講者を始め、日本語学習者の多くが、日本経済や日本のマーケティング、日本人とのコミュニケーションなどをテーマとして卒論を書いている。

本学の大きな特徴は、提携先大学との活発な交流である。現在、秋に1名城西国際大学から長期教育実習生、前期に1週間城西大学学生10名の短期留学生、後期に20日間城西国際大学から10名教育実習生を受け入れているほか、今年度から前期に立命館大学経済学部から4名の学生が交換留学生として滞在することになった。短期・長期に関わらず、本学部の日本語受講生とは、公私共に活発な交流を奨励しており、日本語授業に会話パートナーとして常時参加している学生もいる。また、本学からは、国費留学生に加え、協定校である城西大学、城西国際大学、聖心女子大学、立命館大学に留学生を送っているほか、欧州系企業の日本支社やアイセックという国際学生組織を利用して日本でインターン(卒業単位として必須科目)をする学生もいる。

卒業後の進路は、日系企業就職、進学、日本留学、日本での就職、日本と取引のあるハンガリーあるいは多国籍企業への就職など多岐にわたっており、就職での悩みはそれほどないようである。

ほうもんぶつきょうだいがく
法門仏教大学

法門仏教大学 セメレイ・マルトン

ほうもんぶつきょうだいがく ぶつきょう れきし しそう きょうぎ ぶつきょう ふか ね お ひがし
法門仏教大学は仏教の歴史・思想・教義のほかに仏教が深く根を下ろした東アジア諸国を中心に仏教国の言葉と文化を紹介することも目的の一つです。仏典に用いたパーリ語、原典が多く残っているサンスクリット語とチベット語、そして経典の翻訳が昔から盛んに行われた中国語と日本語が専攻語となっています。これから本大学における日本語教育について短く説明させていただきます。

にほん ことば ぶんか せんこう がくせい がくしかてい しゅうしかてい べんきょう
日本の言葉と文化を専攻にしたい学生は学士課程と修士課程で勉強できます。がくしごう とるまでの3年間は「現代日本語1～10」という授業がずっと続き、ぶんぼう・演習・文字という分野に分けて話し言葉と書き言葉を学びます。学生が日常生活はいうまでもなく、日本における留学・修行、或は日本関係の仕事・研究に不可欠なげんごりよく いくせい ねんめ ねんめ かいわ いかい どうかい じゅぎょう 言語力を育成するために2年目と3年目は「会話1～3」と「読解1～4」という授業もあります。それから、「日本文化1～4」で日本事情・文学・歴史・芸術の基礎知識が提供されます。2年生の後期から「仏教用語」など日本仏教に関することを日本語でまな じゅぎょう ねんせい ぶつてん ぶんご か ぶんけん よ 学ぶ授業もあります。3年生は仏典をはじめ、文語で書かれた文献も読めるようになるために「古語1～2」で文語文法の勉強に入ります。

しゅうしかてい ちゅうじょうきゅう ぶんぼう ごい なら ほんやく けいけん え げんだいにほんご
修士課程は中上級の文法と語彙を習って、翻訳などの経験を得る「現代日本語1～4」があり、「会話1～4」は発表・スピーチなどの練習が中心になっています。かいわ はっぴょう れんしゅう ちゅうしん
「古語1～4」は文語文法を復習してから漢文訓読に重点が置かれ、経典読解の楽しさも味わえる講座です。「文献学1～4」は日本語で行われる授業であり、日本仏教史などのテーマについていっしょ けんきゅう に一緒に研究します。

これら じゅぎょう ぼごわしゃにめい じんいちめい きょうし しどう
これらの授業は母語話者二名とハンガリー一人一名の教師によって指導されています。また、とき ざい にほん かたがた よ にほん
また、時には在ハンガリーの日本の方々をゲストとして呼びしたり、日本からぶつきょうせんもんか しょうへい とくべつこうざ かいこう
仏教専門家を招聘し、特別講座が開講されることもあります。ぜんしゅう いしんでんしん ことば だいじ げんせつ ところ ところ つた
禅宗では「以心伝心」という言葉がありますが、大事なことは言説より心から心へ伝えるものだという智慧を表します。ち え あらわ おんこちしん だいいちぎ ほうもんぶつきょうだいがく ところ
温故知新を第一義とする法門仏教大学では心もわす ことば つう ひと ひと そうりよ いっばんじん げんだいじん ところ ゆた
忘れずに、しかし言葉を通じてこそ人と人、僧侶と一般人、現代人と心を豊かにするこてん で あ のうりよく いくせい めざ きょういく おこな にほんご
古典との出会い・コミュニケーション能力の育成を目指した教育が行われ、日本語・ぶつきょう しょしんしゃ きしゅうしゃ ひろ もんこ ひら しんし まな ひと う い
仏教の初心者にも既修者にも広く門戸を開いて、真摯に学ぶ人を受け入れていきます。

スピーチコンテスト実行委員会より

ハンガリー日本語教師会主催

第19回日本語スピーチコンテストのお知らせ

このコンテストはハンガリーの日本語学習者が普通の学習の成果を試すもので、毎年、約20名の発表者と約200名の聴講者が参加する一大イベントになっています。スピーチには大学・一般の部（「初・中級」及び「上級」）と高校生の部の3部門があります。

また、日本語が上手に話せる学生の個人参加だけでなく、パフォーマンス部門では歌や寸劇の発表、会場横では生け花や書道の展示、また運営に当たっては学生スタッフの協力を得るなど、日本語を勉強しているハンガリー人がさまざまな形で参加できる会を目指しています。

詳細は www.supikon.hu をご覧ください。

第19回は2011年東日本大震災と同じ日になりました。日本人とハンガリー人が共に日本のことを思い、亡くなられた方々のご冥福と、被災地の一刻も早い復興を祈ることができる日にもなれば、と考えております。どなた様もぜひ、ハンガリー人が日本語で行う心のこもったスピーチを聞きにお越しくください！

日時：2012年3月11日（日）11:00～17:00

場所：セント・ラスロー高校 大講堂

Kőbányai Szent László Gimnázium

1102 Budapest, Kőrösi Csoma Sándor út 28-34.

行き方：【公共交通機関での行き方】

Örs vezér tere 行きの赤メトロ (M2) に乗り、終点の駅を出ると、正面に ÁRKÁD というデパートがあります。そのデパートの前で、向かって右方向に進む3番か62番のトラムにお乗りください。4つ目の駅 Ónodi utca で降りると、進行方向に向かって右角に建っているのが高校の建物です。

※駐車場はありませんのでご注意ください。

本件連絡先：

第19回日本語スピーチコンテスト実行委員会

内川 かずみ (エルテ大学日本語講師)

電話：06-20-470-6700

E-mail：kazumi812@gmail.com

運営委員会より

1) 研修会のお知らせ

「中東欧日本語教育研修会2012」

日程-2月18日(土)・19日(日)

場所：Goethe Institut

Budapest, Raday utca 58

テーマ：課題遂行型学習の授業実践と教授法

参加国・参加者-12か国、約55名

2) 会計より

2011年10月～2012年9月の年会費

正会員：2,000Ft.、準会員：1,000Ft.、

特別会員：2,000Ft.以上

年会費をまだ納めていない会員は3月末までに

①または②の方法でお支払いください。

①現金支払い-上記研修会の時かスピコンの時に運営委員に支払ってください。

②銀行振り込み-MJOTの銀行口座に振り込んでください。

銀行名：AXA Kereskedelmi Bank Zrt.

銀行住所：1138 Bp. Váci út 135-139

口座番号：17000019 11561860 00000000

口座名：MJOT

口座名住所：1112 Budapest Brasso út 26/A

MJOT会報25号

発行：2012年2月1日

発行人：ハンガリー日本語教師会

編集：小野久禎